

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：藤井 達矢

研究分野	研究内容のキーワード
現代芸術, アートマネジメント, 美術教育, 仏教美術, 葬送文化, 密教	現代美術, 絵画, アートマネジメント, 木喰仏, 幼児の造形 芸術を介した地域振興, 社会連携, 国際交流
学位	最終学歴
博士(芸術), 修士(芸術), 学士(芸術)	大阪芸術大学大学院 芸術研究科 博士課程(後期) 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
<p>1. 壁画制作</p> <p>2. 学校教育館設備を活かした取り組み</p> <p>3. 作品創作における視聴覚メディアの有機的活用</p> <p>4. 地域社会との連携</p>	<p>2016年4月1日～2017年3月31日</p>	<p>ゼミ(3年次教育演習・4年次卒業研究)の地域での活動で、壁画制作が比較的大きなウエイトを占める。2015年度には西宮市立鳴尾北幼稚園壁画に取り組み、2016年度は武庫川団地壁画の計画を武庫川団地自治会やUR都市機構とともに進めている。他にも神戸市立小学校壁画も当該小学校と検討中。公共の場に一定期間残される壁画には社会性が求められる。計画段階から多くの人と関わることで、将来の教育者・保育者としての資質にもつなげる力を身につけることとなる。</p> <p>移転後大幅に増えた展示可能な空間を、授業の一環で展覧会を行ったり、情報発信の場として活用している。特に附属幼稚園と藤井ゼミの協働で行った「古いクルマに絵を描こう!」プロジェクトでは、学校教育館のコミュニティアゴラ、ウッドデッキに持ち込んだ小さなトラックに園児たちやその親も一緒になって落書きを行った。これが話題となり、市外でのアートイベントにも招待されて出張展示を行うとともに、3年ゼミ生が中心となって新たにワークショップを開催した。現在学校教育館に戻ってきているトラックだが、本学と地域をつなぐひとつの架け橋としてしばらくは活躍することとなる。</p> <p>視聴覚メディア(主に高画質プロジェクター)有効活用によって、限られた授業時間内での作品創作内容をより深め、科目目的の達成を目指している。高画質であることで本物の鑑賞に近い効果が期待される。またSE-517インターメディアアート室は作品制作の機能と高度な視聴覚メディアを併せ持っており、ここで教育学科科目や共通教育科目の実践を行っている。</p> <p>特にゼミ(3年次教育演習・4年次卒業研究)では、地域社会にアートがある意味を、現場での関係性を中心に模索している。学究の場合は常に外にあって、地域社会と本質的に向き合うことから課題を見出している。</p>

2 作成した教科書、教材		
<p>1. 学生作品アーカイブ</p>	<p>2016年4月1日～現在</p>	<p>これまでの学生作品をデジタルアーカイブとする作業を順次進めている。次年度以降の受講者に例示する参考作品のような単なる記録ではなく、ウェブを利用しての展示や学内外との双方向のワークショップの展開など、教育への多角的な活用を目指して準備中。</p>

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
<p>1. 「サピエの子ども写生会」において園児・小学生を指導</p> <p>2. 「第6回たからんまつり」においてワークショップ</p> <p>3. 地域社会における活動</p>	<p>2018年4月29日</p> <p>2018年3月25日</p>	<p>日生中央サピエ主催の写生会において、指導を行った。猪名川美術協会会員として。</p> <p>宝塚市文化団体連絡会・宝塚市文化財団主催の子ども対象ワークショップイベントにおいて、「えっ?なんにもいないよ!?～みんながつくるくいきもの>で、豊かな地球にしよう!」と題してアートワークショップを実施。宝塚美術協会副会長として参画。ラクガキカー2号車も持ち込み、ラクガキワークショップも実施。</p> <p>鳴尾地下道壁画・里中町(高架工事)壁画「ムコナリエ」・神戸元町高架下壁画など、ゼミ生を中心とした本学学生とともに制作。</p> <p>武庫川団地自治会・船坂子ども会・西宮市・宝塚市などで、ゼミ研究の一環としてワークショップの他様々な活動。</p> <p>「西宮船坂ビエンナーレ」・「のせでんアートライン妙見の森」など、アートが人をつなぐ場を企画。</p>

4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 中学校教諭専修免許（美術）	1993年4月30日	平05中専第0001号（茨城県教育委員会）
2. 高等学校教諭専修免許（美術）	1993年4月30日	平05高専第0007号（茨城県教育委員会）
3. 中学校教諭一種免許（美術）	1992年12月28日	平04中1第0083号（茨城県教育委員会）
4. 高等学校教諭一種免許（美術）	1992年12月28日	平04高1第0080号（茨城県教育委員会）
5. 学士（芸術）		筑波大学芸術専門学群卒業 「アクリル絵の具におけるマチエールと耐性」
6. 博士（芸術）		大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程後期修了 「美術表現の時間性をめぐる考察 —飯村隆彦の捉える「間」から—」
7. 修士（芸術）		筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了 「絵画の基底材としての金属、その可能性」
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 創造社デザイン専門学校	1995年04月01日～1996年03月31日	講師
2. 私立三田学園中学校高等学校	1993年04月01日～1995年03月31日	講師（美術）
4 その他		
1. 在外研修	2007年9月1日から2008年8月31日	Kunstakademie Munster (Academy of Fine Arts Muenster) ミュンスター芸術アカデミー（ミュンスター造形芸術大学、ノルトラインヴェストファーレン州/ドイツ）において在外研修。 現代美術の動向や造形教育、街づくりとアートの関係性などについて研究。 それらのまとめとして、個展「Back to Black」をベルリンにて開催。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 「CASABELLA JAPAN」767	共	2008年7月25日	アーキテクト・スタジオ・ジャパン	伊の建築アート誌「CASABELLA」(767号)日本版に、「ミュンスターにみるドイツの街づくり—破壊と再生、そして彫刻プロジェクト」を執筆。pp.36-39
2. 「ちゃぐりん」第40巻第11号	共	2003年11月1日	家の光協会（JA農協グループ）	「ちゃぐりん」第40巻第11号に、「古代アート」を執筆。pp.8-11
3. 幼児の造形—造形活動による子どもの育ち	共	2002年	保育出版社	野村知子・中谷孝子ほか コンピュータと幼児造形について執筆担当。
4. 図工科ワークショップ（中学年編）	共	2001年	明治図書	東山明ほか
5. 幼児造形教育の基礎知識	共	1999年05月	建帛社	花篤實・永守基樹・清原知二・赤穂多恵子・上田保隆・澤田克之・中本岩雄・羽多悦子・藤井達矢・三上利秋・宮田保史・藪田一子・山中隆 他 本書は幼児造形教育に携わる者や学ぶ者に、必要十分な知識を提供するために編まれた。全部で182の項目は、理念的なもの、実践に即したもの、制度や評価に関するものまで、幼児造形教育の多様な姿を映し出している。□第四章「幼児造形教育」の内容と方法、M. コンピュータも楽しい造形ツール、「コンピュータと幼児造形」「コンピュータ・ネットワークで遊ぶ」の項目を担当している。担当（pp.1
2 学位論文				
1. 美術表現の時間性をめぐる考察—飯村隆彦の捉える「間」から—	単	2014年3月	大阪芸術大学大学院博士後期課程 芸術研究科	実験映画で知られる飯村隆彦が磯崎新らと制作した『間：竜安寺石庭の時／空間』（1989年、16mmフィルム・16分）の検証を中心に、全ての美術表現者が抱えてきた時間と空間の問題、特に自身の表現とも重ね合わせ、将来起こりうる時空を捉えた表現形態をも模索する基盤とすべく論じている。そのために第一章では、美術そして美術家が対峙してきた時間について近代社会に照らし、実験映画作家飯村の視座を確認した。第二章では、龍安寺石庭そのものについての仮説を検証した上で飯村の映画を分析した。第三章ではまとめとして時間を表象するための「記号化」と、量子力学などを捉えた新しい表現形態の可能性を展望した。以上を以って、美術表現における時間・空間概念の新たな定式又はその萌芽に繋がる問題提起を行った。
2. 絵画の基底材としての金属、その可能性	単	1993年3月	筑波大学大学院 修士課程 芸術研究科	絵画の長い歴史の中で基底材は大きな変化を遂げてきた。キャンバスの台頭によって金属はその主流とはなり得なかったが、現存するレンブラントの銅板油彩作品からも、金属活用の意味を見出すことがで

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
<p>きる。まず金属そのものの性質を理解した上で、絵画の歴史の中でどのように扱われてきたのかを踏まえ、基底材としての適合性について検証する。さらに、金属を活かす技法材料についても考察し、その可能性を論述する。</p>				
3 学術論文				
1. 地域アートと教育～アーティストのいる児童養護施設～	単	2018年3月31日	全国大学造形美術教育教員養成協議会研究誌『大学造形美術教育研究』（第16号）pp. 45-49	地域アートの在り方が問われる今、それをきっかけに教育・保育の現場に芸術家が入り込み、教師や保育者と共に議論しながら進める取り組みは、高松市の芸術士派遣事業を筆頭に始まっている。筆者が関わる兵庫県西宮市山口町船坂でも、児童養護施設に芸術家を通い9年になる。教育・保育・生活の場でもある施設で、アートがどのような効果をもたらすのか、地域に根差した文脈を踏まえ、その意義を明らかにしたい。芸術療法で用いられる検査法の一つを援用し、芸術表現の効果も確認した。
2. 悲母三十三観音に記された宝珠	単	2018年3月30日	全国木喰研究会『微笑佛』（第25号）pp. 24-28	全国に現存する木喰仏は約600体。そのうち260体が新潟県内に集中している。安住寺（柏崎市）の悲母三十三観音について、馬頭観音だけは改刻されておらず、他の三十二体は後世の仏師によって顔が改刻されていると言われてきた。しかし2017年12月に行った調査の結果、それを超える改刻が施されていたと指摘した。馬頭観音は額上部の髪が宝珠を意匠とした宝冠に改刻された上に墨で文様を描き込まれている。さらに、千手観音・十一面観音など既に頭に複数の化仏を持つ観音像以外のほとんどが、顔のみならず頭巾部分が改刻され、墨も入れられ、特に宝珠を意匠とした宝冠を戴冠する姿へと変容している。その根拠として、頭巾から顔面にはみ出した墨や後背の梵字の配置を挙げた。真言密教を礎に宝珠を大切に扱う木喰上人ではあったが、これらの仏像に記されたそれらは造形上全体のバランスを損なうものであり、明らかに上人の手によるものではないと結論付けた。
3. 木喰仏と宝珠の関係についての考察Ⅱ	単	2018年3月30日	全国木喰研究会『微笑佛』（第25号）pp. 17-23	『微笑佛』（第24号）では、木喰上人が遺した子安地蔵菩薩および子安観音菩薩に抱かれた童子が持つ球体について多角的に分析・検証を行い、宝珠であるという可能性が非常に高いと結論付けた。その後の調査・研究によって、一部の推察（京都常楽寺の夜叉身弟児地蔵に木喰上人が着想を得たとするもの）を訂正するとともに、童子が持つ球体が宝珠である裏付けとなる根拠を新たに示した。それは、木喰上人の作る六観音の構成や時代背景、また社会に一般化していた宝珠の意匠から導き出した。
4. 現代美術と木喰仏	単	2018年3月30日	全国木喰研究会『微笑佛』（第25号）pp. 29-34	2017年11月に『木喰さんプロジェクト』と題して、アーティストとして芸術祭『宝塚現代美術てん・てん』に出展した。江戸後期の作仏遊行僧木喰上人の動きは昨今の地域社会の中井に入り込むアーティストの姿とも重なるが、現代社会が抱える問題・社会課題は洋の東西を問わず根底で通じるものであろうし、筆者とアクセル・テップファー（スイス）、ダニエル・ノイマン（アメリカ）の三人のチームとして、木喰仏をテーマとして社会への問題提起を行った。そのプロジェクトの経緯や成果を報告した。（ドイツ対外文化交流研究所からの助成を受けたプロジェクト）
5. アーティストのいる児童養護施設（査読付）	単	2018年2月23日	武庫川女子大学学校教育センター年報（第3号）pp. 61-70	芸術表現を積極的に採り入れた教育を行う児童養護施設が、全国に複数ある。筆者が関わりのある西宮市船坂地区でも、地域おこしの芸術祭をきっかけに、この取り組みを深めた施設がある。ここでの実践を手掛かりに、児童養護施設での芸術表現の効果を確認し、今後の課題を検討した。
6. 霊柩車に思う～葬送儀礼における天蓋・宝珠の行方（査読付）	単	2018年1月20日	日本葬送文化学会『葬送文化』（第19号）pp. 78-87	本稿では、主に井上章一『霊柩車の誕生』と五来重『葬と供養』を手掛かりに、日本の葬列における天蓋、そしてそこに見られる宝珠、これらの道行きを興・棺車・霊柩車と時代の変遷に沿って辿った。葬列の棺にさしかけられた、滅罪を願う天蓋はやがて興の屋根の上にもさしかけられるようになり、混然一体となり、興や棺車の屋根自体に滅罪の機能が含まれるようになったと考えられる。それは宮型霊柩車の屋根となったが今やごく稀にしかみかけない。街から追われた「死」の場が火葬場と葬祭ホールに集約された今、ホールの祭壇はまさに興であり、そこに天蓋は生きている。日本人の死生観の行く末と天蓋の行方が重なる。
7. 木喰仏と宝珠の関係についての考察	単	2017年4月30日	全国木喰研究会『微笑佛』（第24号）pp. 89-94	木喰上人が遺した子安地蔵菩薩および子安観音菩薩に抱かれた童子が持つ球体について多角的に分析・検証を行い、宝珠であるという可能性が非常に高い

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
8. 木喰仏と宝珠一特に子安像の形態についてー(査読付)	単	2017年12月1日	武庫川女子大学生生活美学研究所紀要(第27号) pp. 121-134	と結論付けた。 江戸後期の遊行僧木喰上人は、全国に1000体余りの木造仏(約600体が現存)を遺しているが、庶民に寄り添うその姿勢から、現代の地域アートに通じる要素が見られる。特に子安観音・子安地藏像はすべて子どもを抱き、その子どもは全て宝珠を捧げ持っている。それらの造形上の特徴を様々な角度から分析し、木喰上人による美術表現の根幹を探ることからはじめ、現代の地域とアート、社会とアート、教育とアートについての課題解決の糸口を見出す。
9. 美術表現の時間性をめぐる考察(査読付)	単	2017年	武庫川女子大学紀要(第64巻) pp. 21-30	全ての美術表現、それがプロフェッショナルなアーティストによるものであろうと幼児の落書きであろうと、そこには必ず「時間」と「空間」が介在することになる。本稿では美術表現にある時間軸に絞り、特に飯村隆彦の実験映画の手法から考察を行った。この結果を礎に、幼児の造形活動にあらわれる時間性の検討に着手する予定である。
10. こどもの手にはドラゴンボール～真言密教と木喰仏～	単	2017年	猪名川木喰会、機関紙「スマイル」	2017年6月11日に行った講演内容のまとめをベースに、新たな視点からの分析も加え、木喰上人の子安観音・子安地藏に見られる宝珠が真言密教に由来すること、そして庶民信仰や石仏との関係性を明らかにした。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 研究発表「悲母三十三観音について」「現代アートと木喰仏」	単	2018年5月13日	猪名川木喰会	猪名川町生涯学習センターにて最新の研究成果を発表
2. 研究発表「木喰仏と宝珠について」	単	2017年6月11日	猪名川木喰会	猪名川町生涯学習センターにて最新の研究成果を発表
3. アーティストのいる児童養護施設ー地域アートがもたらすものー	単	2017年11月	日本アートマネジメント学会	西宮船坂ビエンナーレをきっかけに、地域の児童養護施設にビエンナーレ参加アーティストの1人が入り始めて9年目となる。その意義や課題を検討した。
4. 「地域が支えるアートとまちづくり」シンポジウム	単	2015年3月22日	柏原ビエンナーレ作家会・特定非営利活動法人まちづくりプロジェクト	シンポジウムのパネリストとして、西川唱子氏(特定非営利法人結びめ事務局・風と土の交響プロジェクトチーム)・藤浩志氏(秋田公立美術大学教授・十和田市現代美術館館長・美術家)とともに登壇。モデレーター:森田耕太郎(宝塚大学造形芸術学部教授)
5. 西宮船坂ビエンナーレについて		2013年10月26日	宝塚映画祭	宝塚市シネピアにおいて宝塚映画祭の一環として開催された講演「この町を面白くする10人のプレゼンテーションパーティー#1」において、西宮市山口町船坂でのアートと地域振興の現況および展望を発表。
6. もうひとつの図工室	単	2011年11月18日	宝塚市図工部会	兵庫県造形教育研究会にて配布された図画工作教育研究誌。「図工に寄せる」の章にて「つながる場を」と題して、2009年からアートディレクターとして関わっている西宮船坂ビエンナーレについて述べた。(p. 14)
7. アートと地域社会～西宮船坂ビエンナーレ～		2011年11月		中国北京市の北京映画大学において特別講演を行った。
8. 船坂におけるアート・プロジェクト「土と火と、実りの里の芸術祭」について	単	2011年03月		社会活動として取り組んできた西宮市山口町船坂でのアート・プロジェクトについて、その特徴と展望を発表した。
9. アートが人をつなぐー西宮船坂ビエンナーレの事例ー	単	2011年03月		中国河南省広州の華南農業大学芸術学部において、特別講演を行った。
10. 西宮船坂ビエンナーレ2010について	単	2011年03月		県助成を受けたアートによる地域活性化プロジェクトの総合ディレクターとして、その成果発表を行った。優れた取り組みとして、グランプリを受賞した。
11. 西宮船坂ビエンナーレ2010について	単	2010年10月		総合ディレクターを務める西宮市山口町船坂における芸術祭について、その成果を発表した。
12. 西宮船坂ビエンナーレ2009プロローグについて	単	2010年03月		総合ディレクターを務める地域活性を目指した国際芸術祭(西宮市山口町船坂)の成果について発表。県助成を受けた中から最も優れた取り組みとして、グランプリを受賞。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. 第7回春の猪名美展		2018年5月2日～6日	主催:猪名川美術協会 後援:猪名川町・猪名川町文化協会・猪名川	猪名川町に多数のこる木喰仏をテーマとした約5分の映像作品を発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
2. 日本美術家連盟全近畿地区会員展「きのうとあすの対話Ⅲ」		2018年4月5日～15日	町教育委員会 会場：サビエギャラリー（能勢電鉄日生中央駅前） 主催：日本美術家連盟（近畿）、IAA国際美術連盟 会場：兵庫県立美術館 王子分館 原田の森ギャラリー	約5分のビデオアート作品「森Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を出展。
3. 第28回宝塚芸術展		2018年1月26日～30日	主催：宝塚市・宝塚市文化財団・宝塚市文化連盟	宝塚市立国際文化センターにて開催された本展において、ビデオアート作品「もくじきさんプロジェクト」を出展。
4. 「宝塚現代美術てん・てん2017」	共	2017年11月3日～12日	主催：宝塚現代美術てん・てん実行委員会	『木喰さんプロジェクト』と題して、アクセル・テップファー（在スイス）+ダニエル・ノイマン（在ニューヨーク）+藤井達矢のコラボレーション作品展示を行った。 猪名川町に遺る木喰仏26体を手掛かりとした社会への問題提起。
5. 第27回宝塚芸術展		2017年1月20日～1月24日	主催：宝塚市・宝塚市文化財団・宝塚市文化連盟	宝塚市立国際文化センターにて開催された本展において、ビデオアート作品「陽の差す森の一角で」を出展。
6. 創立60周年記念 西宮美術協会第60回展	共	2016年9月20日～10月2日	主催：西宮美術協会 後援：西宮市・西宮市教育委員会・西宮市文化振興財団・西宮市大谷記念美術館	西宮市立市民ギャラリーで開催される西宮ゆかりの美術家（画家・彫刻家・版画家など）の展示。「eine lichte Stelle im Wald…陽の差す森の一角で…」と題した作品を出展。平成28年度前期に担当した「先端芸術表現」「教科図画工作」「教育演習」「卒業研究」の受講者有志約200名のメールアートとのコラボレーション。
7. 堺アルテポルト黄金芸術祭		2016年3月11日～21日	堺アートプロジェクト	堺市シティープロモーション認定事業である、堺の歴史文化を礎とした国際芸術祭にアーティストとして参加
8. 第44回西宮市芸術祭「西宮の作家近作展」	共	2016年10月19日～10月27日	主催：西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会	西宮市立市民ギャラリーで開催される西宮ゆかりの芸術家（部門：洋画・デザイン・写真・彫塑・日本画・書道・工芸）の展示。「eine lichte Stelle im Wald…陽の差す森の一角で…」と題した作品を出展。平成28年度前期に担当した「先端芸術表現」「教科図画工作」「教育演習」「卒業研究」の受講者有志約200名のメールアートとのコラボレーション。
9. 企画展「traces」		2015年4月22日～5月	Kunstlerhaus Hamburg e.V. und Abbildungszentrum e.V. FRISE（ハンブルク、ドイツ）	ドイツでの企画展覧会に参加
10. アートプロジェクト「宝塚現代美術てん・てん」		2015年10月30日～11月3日	宝塚現代美術てん・てん実行委員会	兵庫県宝塚市内の空きビルや文化施設などを舞台にした企画展覧会にて、インスタレーション展示を実施。
11. のせでんアートライン妙見の森2015		2015年10月10日～11月23日	のせでんアートライン妙見の森2015実行委員会	アートプロデューサー企画として、能勢電鉄沿線地域の幼稚園・保育所などの子どもたちとのワークショップ及び展示を行う。川西市郷土館にて展示。（国際芸術祭）
12. 定例研究会「きらめく存在の不思議～美術と物理学と心理学の現場から」		2015年1月31日	武庫川女子大学生活美学研究所	朝岡あかね（現代美術家）、猪股剛（帝塚山学院大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻准教授）、身内賢太郎（神戸大学大学院理学研究科物理学専攻准教授）を招いての研究会、コーディネーター。
13. のせでんアートライン妙見の森2015		2015年	のせでんアートライン妙見の森2015実行委員会	アートプロデューサーとして
14. 西宮船坂ビエンナーレ2014		2014年10月	船坂里山芸術祭推進委員会	総合ディレクターとして（国際芸術祭）
15. 定例研究会「里の条件－日本人の場の感覚－」		2013年7月20日	武庫川女子大学生活美学研究所	岸井大輔（劇作家）、山下里加（京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科准教授）、三戸俊徳（日本アートマネジメント学会関西西部会事務局長、宝塚市文化財団企画総務課長）を招いての研究会、コーディネーター。
16. のせでんアートライン妙見の森2013		2013年09月～11月		アートプロデューサーとして
17. 日本美術家連盟全近畿地区会員展「きのうとあすの対話Ⅱ2013」		2013年05月		兵庫県立美術館原田の森ギャラリー
18. 西宮船坂ビエンナーレ2012		2012年10月	船坂里山芸術祭推進委員会	総合ディレクターとして（国際芸術祭）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
19. 日中交流現代美術展A as A Project		2012年03月	広州53美術館	中国広東省広州の広州53美術館での企画展。美術館キュレーター胡震とともに日本担当キュレーターとして、またアーティストとしても作品展示。（国際芸術祭）
20. 間の間の美学「happy conceptual 2 -an hour in the life- 杉山知子+藤本由紀夫」展		2011年11月	生活美学研究所	研究員として企画担当
21. 中之条ビエンナーレ2011		2011年09月～11月	中之条ビエンナーレ実行委員会	群馬県中之条町での芸術祭において、藤井達矢+シルビア・シュルテス（ドイツ）+ヒンリク・グロス（ドイツ）のユニットとしてインスタレーション作品「いち、にの、さんめのこ」を展示（国際芸術祭）
22. 「ニュースの外側」展		2011年09月		ハンブルク（ドイツ）他、ヨーロッパ巡回。震災を受けての企画展。ハンブルク在住日本人アーティスト綿引展子による企画。本学共通科目「先端芸術表現」受講者作品も全て展示。
23. 「デパートに、里山アートがやってきた！」～西宮船坂ビエンナーレ2010関係作家が彩る都市空間～		2011年02月	西宮阪急	キュレーターおよびアーティストとして
24. 第21回宝塚芸術展		2011年01月		
25. 「Conversing with Nature」展		2011年		北海道の廃校施設を利用したグループ企画展。アーティスト小林俊哉による企画
26. 土と火と、実りの里の芸術祭2011 in船坂		2011年		オブザーバーとして
27. 第65回行動展（京都展）		2010年11月		京都市美術館
28. ギャラリー甲風画苑オープニング記念作品展		2010年11月		
29. 第38回西宮市芸術祭・西宮の作家160人の近作展		2010年10月		
30. 第65回行動展（大阪展）		2010年10月		大阪市立美術館
31. 西宮船坂ビエンナーレ2010		2010年10月	船坂里山芸術祭推進委員会	総合ディレクターとして（国際芸術祭）
32. 架空通信百花繚乱展2010		2010年10月		兵庫県立美術館
33. サイレント・ポジションinしかおい		2010年09月		北海道鹿追町での企画展。在ドイツのアーティスト、ロルフ・ベルグマイヤーによる企画。
34. 第65回行動展		2010年09月		国立新美術館
35. 稚内北星学園大学ミュージアム・プロジェクト～リアルタイムwebと美術～		2010年09月		稚内北星学園大学構内を利用したアート・プロジェクト。同大学講師でアーティストの小谷彰宏による企画。
36. 西宮市・紹興市友好都市提携25周年記念交流美術展		2010年09月		
37. “Ach, so!?” Vol. 2		2010年07月	Kunstlerhaus Hamburg e.V. und Ab bildungsze ntrum e.V. FRISE（ハンブルク、ドイツ）	ハンブルク（ドイツ）でのグループ企画展に参加し、インスタレーション作品を展覧。
38. 城下り子と仲間たち展		2010年07月		
39. 行動美術長屋…隣は何をする人ぞ		2010年06月		
40. 西宮市紹興市交流展		2010年05月		中国紹興市での日中交流企画展（紹興書画院、浙江省紹興市・中国）
41. 現代のアートシーンを切り拓く西宮美術協会の作家たち		2010年04月		
42. [Silent Position](Velada St. Lucia 2010)		2010年03月		マラカイボ（ベネズエラ）での企画展。在ドイツのアーティスト、ロルフ・ベルグマイヤーによる企画。
43. 宝塚市芸術展		2010年01月		宝塚市主催の展覧会。宝塚市展と会期を合わせて開催され、市展審査員の作品も展示される。
44. 我孫子国際野外美術展		2009年11月	我孫子野外美術展実行委員会	水辺の集落を舞台とした国際野外芸術祭。招待作家として、古民家にて地域の老人とコミュニケーションを行いながら作品を制作し発表した。（国際芸術祭）
45. 第37回西宮市芸術祭「西宮の作家近作展」		2009年10月		西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会主催の展覧会。西宮芸術文化協会会員の近作を紹介する。
46. 第64回行動展（大阪展）		2009年10月		行動美術協会主催の公募展覧会。審査員も務め運営にあたる一方、映像を中心としたインスタレーションを行った。
47. 西宮美術協会展		2009年09月		西宮美術協会主催の展覧会。三つの映像を含むインスタレーションを行った。また、西宮船坂ビエンナ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
48. 第64回行動展		2009年09月		一レの取り組みについて講演も行った。 行動美術協会主催の公募展覧会。審査員も務め運営にあたる一方、映像を中心としたインスタレーションを行った。
49. 百花繚乱展2009		2009年09月		関西ゆかりの現代美術家が、ジャンルを超えて表現の「今」を提示し交流する展覧会。こたつ・みかんをテーマとしたインスタレーションを行った。
50. 中之条ビエンナーレ2009		2009年08月	中之条ビエンナーレ実行委員会	温泉町を含む広大な里山一帯を舞台にした大規模な国際芸術祭。市街にある旧廣盛酒造の酒蔵、沢渡温泉地区の古民家を舞台に、インスタレーションを展開した。
51. Advance Party		2009年06月		行動美術協会に所属し兵庫県ゆかりの現代美術家7名が、毎年何らかのコラボレーションを行う実験的展覧会。
52. 西宮美術協会新作0号展		2009年06月		西宮美術協会主催の小品展。会員・理事として運営にあたる一方、自身の小品を出品。
53. 第62回全関西行動展		2009年05月		行動美術協会主催の公募展覧会。審査員も務め運営にあたる一方、自身の映像作品を出品。
54. 中之条ビエンナーレ2009プレオープン展		2009年05月	中之条ビエンナーレ実行委員会	温泉町を含む広大な里山一帯を舞台にした大規模な国際芸術祭。市街にある旧廣盛酒造の酒蔵、沢渡温泉地区の古民家を舞台に、インスタレーションを展開した。
55. 第6回クロスロード展		2009年02月		主催：西宮美術協会 後援：西宮市・西宮市文化振興財団 >加工写真作品「オレンジの風景」（B1サイズ・フォトアクリル）を出品
56. 第2回アート・フォト・サクラ ～アートを感じる写真展～		2009年01月		写真作品「ベニスの三界坊」（モノクロ）を出品
57. 第19回宝塚市芸術展		2009年01月		宝塚市主催の展覧会。宝塚市展と会期を合わせて開催され、市展審査員として作品も展示される。
58. 第63回行動展（大阪展）		2008年10月		行動美術協会主催の公募展覧会。審査員も務め運営にあたる一方、映像を中心としたインスタレーションを行った。
59. 第36回西宮市芸術祭「西宮の作家近作展」		2008年10月		西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会主催の展覧会。西宮芸術文化協会会員の近作を紹介する。
60. 国際野外の表現展2008		2008年09月		自然環境と人間の関係性を問う国際芸術祭。調整池の畔の小路に、道路工事用仮設信号機を設置し、仮想の工事現場を幻出させた。（国際芸術祭）
61. 第63回行動展		2008年09月		ビデオインスタレーション「わたしはどこ？そして君は？」を出品。 会場：国立新美術館
62. 個展 Back to Black		2008年03月	gallery oko(Berlin)	生と死をテーマとした平面作品・オブジェ・ビデオアートを含むインスタレーション。 在外研修中の研究成果を、ドイツ、ベルリンのギャラリーにて発表した。
63. 第62回行動展		2007年09月		行動美術協会主催の本展において、ストロボライトや赤外線センサーを用いた体感型インスタレーション作品を出品。生と死を観客が沈思するための装置という設定で、作品を配置した。会場：国立新美術館
64. Advance Party		2007年06月		行動美術協会に所属し兵庫県ゆかりの現代美術家7名が、毎年何らかのコラボレーションを行う実験的展覧会。
65. 西宮美術協会新作0号展		2007年06月		西宮美術協会主催の小品展。会員・理事として運営にあたる一方、自身の小品を出品。
66. 全関西行動美術60回記念展		2007年05月		
67. 第60回全関西行動展		2007年04月		行動美術協会主催の公募展覧会。審査員も務め運営にあたる一方、自身の絵画作品を出品。
68. 第17回宝塚市芸術展		2007年01月		宝塚市主催の展覧会。宝塚市展と会期を合わせて開催され、市展審査員の作品も展示される。
69. 西宮の作家・近作展		2006年11月		主催：西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会
70. 第61回行動展（大阪展）		2006年10月	大阪市立美術館	
71. 国際野外の表現展2006比企		2006年09月		自然環境と人間の関係について問う国際展において、携帯端末を活用しインターネットと連関した野外作品を発表した。（国際芸術祭）
72. 第61回行動展		2006年09月	東京都美術館	
73. Advance Party		2006年06月		行動美術協会に所属し兵庫県ゆかりの現代美術家7名が、毎年何らかのコラボレーションを行う実験的展覧会。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
74. 西宮の作家・近作展		2006年02月		<p>覧会。 3.5m長のツタのツル9本を吊るし、シンクロナスマーターで回転させた。壁面に移ろう光と影も含めて作品とした。 主催：西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会</p>
75. 現代美術のススメ展		2006年		西宮
76. 現代美術のススメ展		2006年		東京
77. Echo-自己振動-展		2006年		美術表現の可能性を探る、実験的グループ展。
78. 藤井達矢 個展 ～pleats～		2005年11月		<p>5.8高の杉丸太を会場に林立させ、床は一面黒い水を張り池とした。中央には細い橋を渡し、観客が歩けるようにした。橋の所々にQRコードを付し携帯で読み解く仕掛けや、音響装置による効果も加えた。美術手帖（2006年2月号）に論評と作品写真が掲載された。</p>
79. 第60回記念行動展（大阪展）		2005年10月		大阪市立美術館
80. 第60回記念行動展		2005年09月		<p>行動美術協会会員・審査員 和紙・アルミ板・アクリル絵の具を使用した260×182cmの絵画作品出品。</p>
81. 藤井達矢 個展 ～pleats～		2005年08月		
82. Advance Party展		2005年06月		
83. 明日をになう西宮の作家・その後展		2005年		<p>各分野推薦委員から推挙された西宮ゆかりの作家が、最新作を展示する展覧会。洋画部門に選出された。</p>
84. 藤井達矢 個展 ～pleats～		2004年11月		
85. 第59回行動展		2004年09月		行動美術協会会員、審査員。
86. 西宮芸術文化協会会員に推挙		2004年09月		
87. 藤井達矢 個展 ～pleats～		2004年08月		
88. 第14回宝塚芸術展		2004年01月		<p>主催：宝塚市・宝塚市文化振興財団 以後毎年</p>
89. 西宮の作家・近作展		2004年～現在		<p>主催：西宮市・西宮市文化振興財団・西宮芸術文化協会</p>
90. 福島現代美術ビエンナーレ		2004年		
91. 第58回行動展		2003年09月		行動美術協会会員、審査員。
92. 第13回宝塚芸術展		2003年～現在		
93. 第57回行動展		2002年09月		行動美術協会会員、審査員。
94. 宝塚美術協会会員に推挙		2002年		
95. 第56回行動展		2001年09月		行動美術協会会員、審査員。
96. 日本美術家連盟会員に推挙。		2001年04月		
97. 藤井達矢個展－生きもののシワー、開催。（東京、あかね画廊）		2001年02月		
98. 第55回行動展		2000年09月		行動美術協会会員、審査員。
99. 筑波大学芸術学系収蔵洋画作品展		2000年		茨城県つくば美術館
100. 明日をになう西宮の作家展		2000年		
101. 文化庁現代美術選抜展、出品。		2000年		
102. 第54回行動展、出品。		1999年09月		
103. 第53回行動展において、行動美術協会会員に推挙		1998年09月		
104. 第53回行動展、向井潤吉賞受賞		1998年09月		
105. 藤井達矢個展－発生の源泉－PART.2、開催。（銀座、フタバ画廊）		1996年09月		
106. 第51回行動展、会友賞受賞。		1996年09月		
107. 藤井達矢個展－発生の源泉－PART.1、開催。（大阪、ギャラリークオーレ）		1996年03月		
108. 西宮美術協会展		1995年10月～現在		西宮美術協会主催の展覧会。
109. 第50回記念行動展において、行動美術協会会友に推挙。		1995年09月		
110. 東京セントラル美術館油絵大賞展、招待出品。		1995年08月		
111. 第14回安田火災美術財団奨励賞展、出品。		1995年02月		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
112. 第49回行動展、新人賞受賞。		1994年09月		東京 東京都美術館
113. 第1回「感動する・人と自然」大賞展、佳作賞受賞。		1994年08月		
114. Aspect in Crew ・ Part 1		1994年		
115. 第48回行動展、安田火災美術財団奨励賞受賞。		1993年09月		
116. 石田敦・藤井達矢展－表層と深層－、開催。（虎ノ門、ギャラリー日鉱）		1993年01月		
117. 第47回行動展、奨励賞受賞。		1992年09月		
118. 第35回安井賞展、入選。		1992年03月		
119. 全関西行動展		1992年～現在		
120. 第46回行動展、入選。		1991年09月～現在		
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 子どもの手にはドラゴンボール！？～木喰仏と宝珠の関係性についての考察～	単	2017年1月	猪名川木喰会	木喰上人が遺した子安地藏菩薩および子安観音菩薩に抱かれた童子が持つ球体について多角的に分析・検証を行い、宝珠であるという可能性が非常に高いと結論付けた。
2. 第26回秋季シンポジウム「街をアートで遊ぶ～地域が生まれ変わる～」		2016年12月3日	武庫川女子大学生生活美学研究所	2000年代以降日本では、地方創生とアート、「遊」を意識したプロジェクトが熱い注目を浴びています。現代日本においても、アートを介して果敢に社会と対峙し、地域のポテンシャルを高めるユニークな実践事例をご紹介します。講師：上田 假奈代 氏（詩人、詩業家、大阪市立大学研究員、コッルーム代表）日下 慶太 氏（コピーライター、写真家、セルフ祭実行委員）林 寿美 氏（インディペンデント・キュレーター、国立国際美術館客員研究員）指定討論者：大坪明 氏（武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室長）進行：藤井達矢（生活美学研究所員）
3. 定例研究会「きらめく存在の不思議～美術と物理学と心理学の現場から」		2015年1月31日	武庫川女子大学生生活美学研究所	本シンポジウムの企画担当として、またパネルディスカッションでは進行を務める。朝岡あかね（現代美術家）、猪股剛（帝塚山学院大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻准教授）、身内賢太郎（神戸大学大学院理学研究科物理学専攻准教授）を招いての研究会。コーディネーター・進行を担当。
4. 定例研究会「里の条件－日本人の場の感覚－」		2013年7月20日	武庫川女子大学生生活美学研究所	岸井大輔（劇作家）、山下里加（京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科准教授）、三戸俊徳（日本アートマネジメント学会関西支部会事務局長、宝塚市文化財団企画総務課長）を招いての研究会。コーディネーター・進行を担当。
5. 秋季シンポジウム「間の間の美学」happy conceptual 2 -an hour in the life- 杉山知子+藤本由紀夫		2011年11月	武庫川女子大学生生活美学研究所	「happy conceptual 2 -an hour in the life- 杉山知子+藤本由紀夫」展覧会のキュレーション、シンポジウムのコーディネーター・進行を担当
6. 伊の建築アート誌「CASABELLA」（767号）日本版に、＜ミュンスターにみるドイツの街づくり－破壊と再生、そして彫刻プロジェクト＞が掲載される。在外研修中に執筆。		2008年		
7. 古代のアート	単	2003年11月1日	家の光協会（JA農協グループ）、「ちゃぐりん」第40巻第11号、pp. 8-11	
6. 研究費の取得状況				
1. 国際芸術祭「西宮船坂ビエンナーレ」開催にあたって複数助成採択		2009年～現在		文部科学省科学研究費、奨励研究として採択
2. 幼児の造形活動とコンピュータ		1997年～1998年		
3. 第5回ホルベイン・スカラシップ		1990年		
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年4月9日～	猪名川美術協会 会員
2. 2018年4月2日～	日本保育学会 会員
3. 2017年5月～	密教研究会 会員
4. 2017年～	宝塚美術協会 副会長
5. 2016年8月18日～	宝塚市民文化芸術振興会議 委員長
6. 2016年4月1日～2017年3月31日	のせでんアートライン妙見の森アートプロデューサー
7. 2016年4月～2018年3月	西宮市大学交流協議会市民対象講座委員会 委員
8. 2016年12月1日～	全国木喰研究会 会員
9. 2016年10月9日～	猪名川木喰会 会員
10. 2015年8月1日～現在	西宮市文化まちづくり推進委員会委員
11. 2015年4月1日～2016年3月31日	のせでんアートライン妙見の森2015アートプロデューサー
12. 2015年3月～2015年10月17日	西宮市野外文化事業「野外アートフェスティバル」実行委員会副委員長
13. 2014年1月～現在	宝塚市民文化芸術振興会議委員
14. 2014年1月～現在	西宮市大谷記念美術館専門委員
15. 2013年4月1日～2014年3月31日	のせでんアートライン妙見の森2013アートプロデューサー
16. 2013年～現在	宝塚市文化財団評議員
17. 2009年～現在	船坂里山芸術祭推進委員会 委員
18. 2009年～現在	西宮船坂ビエンナーレ総合ディレクター
19. 2003年1月～現在	宝塚市展審査員・運営委員
	行動美術協会 会員
	日本美術家連盟 会員
	日本葬送文化学会 会員
	日本美術教育学会
	近畿地区教員保母養成系大学美術教育協議会
	全国造形教育連盟大学部会
	全国大学造形美術教育教員養成協議会
	西宮芸術文化協会 会員
	西宮美術協会 会員
	宝塚美術協会 会員
	宝塚市文化連盟 会員
	日本アートマネジメント学会